

第8学年3組 社会科学習指導案

令和4年7月6日(水) 5校時

島根大学教育学部附属義務教育学校 江角 啓

1 単元名 日本の諸地域 中国・四国地方 ～人口や都市・村落に注目して～

2 単元の目標

- ・中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。また、人口の減少や増加にともなう地域への影響と、それに関連する自然環境、産業、人々の生活の様子や、そこで生ずる課題について理解する。(知識及び技能)
- ・中国・四国地方において、人口の減少や増加にともなう地域への影響を、人々の対応、他地域との結び付きなどに着目して、自然環境、産業、人々の生活の様子や、そこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- ・中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ・人口の減少や増加にともなう地域への影響と、それに関連する自然環境、産業、人々の生活の様子や、そこで生ずる課題について理解している。	・中国・四国地方において、人口の減少や増加にともなう地域への影響を、人々の対応、他地域との結び付きなどに着目して、自然環境、産業、人々の生活の様子や、そこで生ずる課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4 単元の内容について

(1) 教材について

1950年代以降の日本経済の高度成長は、農村・漁村を中心とする地方の人口を急激に大都市に吸い寄せ、国内の人口分布を大きく変えた。それまで地方において第1次産業に従事していた人々が、若い世代を中心に、第2次・第3次産業をおもな産業とする大都市に出ていき、多くの地方では人口の減少と高齢化の問題に直面することになった。人口減少が続いた地域では今日まで、農林水産業の衰退、身近な商店の減少、公共交通機関の利便性の低下、地域活動の維持が難しくなるなど、住民の生活にかかわる様々な問題が生じている。一方で、人口が急激に増加した大都市では、住宅の不足、環境の悪化、道路や鉄道の混雑などの都市問題が発生し、過疎と過密の問題は我が国が解決すべき重要な課題の一つとなっている。また、日本の総人口は2010年頃をピークに減少に転じ、今後も人口減少と高齢化が進行していくことが予測されている。ここ数年の新型コロナウイルス感染症の流行は、出生数の減少により少子化の進行を加速させているほか、テレワークの普及、大都市から自然豊かな農村への移住者の増加など、従来の大都市中心の生活とは異なる新たな動きを生み出しており、私たちはこのような課題や社

会の変化に対応しながら、持続可能な地域の在り方やしくみをつくりあげていくことが求められている。

本単元では、日本の諸地域のなかの中国・四国地方をとりあげる。中国・四国地方は、瀬戸内と山陰・南四国の間で人口の分布に大きな差がみられる地域である。大幅な人口減少と過疎化が進行してきた中国山地や四国山地の山間部に対し、地方中枢都市の広島市では人口増加と市街地の拡大が続いており、人口の動態や都市・村落の変化について、ひとつの地方の中で対照的な特徴を読み取ることができる。また、中国山地や四国山地の山間部では、人口減少にともなう諸課題への対応として、全国に先駆けて特色ある地域おこしの取り組みが行われてきた。その結果、現在では、若い世代の移住者が増加するなど、新しい変化が起きている市町村も多くみられることから、このような象徴的な事例をとりあげることで、人口減少という課題に人々がどのように取り組み、そのことによって地域にどのような変化が起きているのか考察することができる地域である。

(2) 生徒について

本校は、島根県の県庁所在地である松江市に位置しており、生徒の多くは島根県に在住している。そのため、ほとんどの生徒が島根県の人口が47都道府県のなかで2番目に少ないことを知っており、過疎化が島根県にとって大きな課題であることは認識している。地理的分野の学習においても、日本の人口の特色として、過密の地域と過疎の地域があることや、日本全体の人口が2010年頃をピークに減少を始めていることを学習している。

また、本校では総合的な学習として「未来創造科」を設定し、松江市をフィールドとして生徒が探求的に「住みたいまち」について考える学習を展開している。7年時の未来創造科では、市内の公民館の活動や役割について調べることで、地域の人々にとっての「住みたいまち」とは何か考えた。8年生では、職場訪問を行い、地域の事業所を通して「住みたいまち」について自分の考えを深め、最終学年の9年生では、地域を活性化する具体的な方策について考え、提案することになっている。

8年生の5月に実施した「島根に住みたいと思うか」を問うアンケートでは、「島根に住み続けたい」と回答した生徒(14%)の理由として、「住み慣れている、落ち着く、家族が近くにいた方がいい、島根が好き」というものが多かった。一方、「進学・就職で県外に出たのち、県外に住み続けたい」と回答した生徒(19%)の理由としては、「店が少ない、交通が不便、遊ぶ場所が少ない、県外の方が就職の選択肢が多い、多様な考え・価値観と出会いたい」というものがあつた。最も多かったのは「進学・就職等で県外に出たのち、いつかは戻ってきたい」(44%)と「進学・就職等で県外へ出たのち、就職等で戻ってきたい」(10%)で、半数以上の生徒が、島根県での生活に好感をもちながら、大都市での生活にも魅力を感じているようである。

ただ、生徒の大多数は大都市での生活を経験したことはない。また、生徒が生活している松江市周辺は島根県のなかでも都市部であることから、生徒は過疎化についての漠然としたイメージはもっているが、人口が大きく減少している山間部の地域で具体的にどのようなことが課題となっているのか、実感がもてない生徒が多いと思われる。本単元では、実際に人口が大きく減少または増加している地域でみられる事象を具体的に捉えることで、地域の人口が変化する背景にはどのような要因があり、それらがどのように関係しあっているのかを、生徒が具体的なイメージを持ちながら説明できるようにしたい。

(3) 指導にあたって

本単元では、中国・四国地方の自然環境、産業、交通などの固有の要素が、他地域との結び付きの変化の中で、人口や都市、村落にどのような影響を与えているか考える。生徒が探求的な学習を進めていくために、単元構造図によって生徒が獲得する知識・概念やそれらに迫るための問いを構造化し、生徒

がどの時間に何を学ぶのかを明確にする。探求的な学習過程としては、「つかむ」「調べる・考える」「まとめる」「いかす・ふりかえる」という4つの場面を設定し、生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的事象に対して自らの問いを主体的に追究できるようにする。このことを生徒自身も意識しながら見通しをもって学習を進められるよう、「ふりかえりシート」の構成を構造化し、単元の初めに立てる「単元を貫く問い」やその予想を毎時間の授業で自ら振り返ることを繰り返しながら、学種を進めていくようにする。

本単元の「つかむ」場面では、中国・四国地方の人口分布の特色を捉えた後で、島根県の人口の推移の資料を示し、47都道府県の中でもとりわけ人口が少なく過疎化が進んでいるというイメージの強い島根県が、かつては人口が増加し、中国・四国地方の他県よりも人口が多かったという事実から、「なぜこんなに人口が減ってしまったのだろうか？」という生徒の疑問を引き出し、「地域の人口は、どのような要因によって減少したり増加したりするのか。」という単元を貫く問いを設定したい。そして、その問いについて予想し、どのようなことを調べたらよいかを生徒が考えることで、第2時以降に追究していく各時間の「本時の問い」につなげていく。

「調べる・考える」場面では、人口がピーク時から64.3%減少した島根県邑南町と、この40年間で57.7%増加した広島市安佐南区という対照的な2つの地域をとりあげ、人口が減少または増加している地域でどのような変化が生じ、人々の生活にどのような影響が出ているのかを具体的に捉える。それらを「ワークシート」に図として整理することで、自然環境、産業、生活といった面でみられる事象が、互いにどのように関連しあっているのか考える。

そして、これまで人口が減少または増加してきた要因について考えた後、邑南町で行われている地域おこしの取り組みから、過疎化が進んできた地域で現在、若い世代が増加している要因について考察する。そのときには、邑南町と安佐南区の図を比較したり関連付けて考えたりすることで、従来は人口減少の要因として捉えられていた地域の特色が、逆にその地域の強みとなっていることや、他地域との結び付きの中で事象が成立したり変化したりしていることを理解する。

本単元の学習を通して、現在生じている地域の課題が決して固定化されたものではなく、社会の変化や人々の努力によって解決できる可能性をもっていることに気づかせたい。「ふりかえりシート」の「単元のふりかえり」では、本単元で学んだことを今後どのように生かしていきたいか考えることで、今後の未来創造科の学習と関連付けるなど、生徒がよりよい社会の実現をめざして、地域や社会が抱える課題の解決に取り組む意欲が高まるような学習になるようにしたい。

5 指導と評価の計画

○評定に用いる評価 ●学習改善につなげる評価

時	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法)
		知	思	態	
1	<p>本時の問い：中国・四国地方の人口の分布にはどのような特色がみられるのだろうか。</p> <p>中国・四国地方の自然、気候、人口分布などの資料を読み取り、特色をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方は、中国山地と四国山地によって山陰、瀬戸内、南四国に分けられ、気候の特色にも違いがみられる。 瀬戸内の平野部に人口が集中しており、山陰と南四国は人口が少ない。特に山間部と離島の人口密度が 				

低い。
 島根県の人口が、1955年の国勢調査までは増加していたこと、都道府県別の順位でも30位台であったことを知る。

【単元を貫く問い】
地域の人口は、どのような要因によって減少したり増加したりするのだろうか。

単元を貫く問いについて、予想を書く。
 ・自然 ・遊ぶところ ・仕事 ・買い物する場所
 ・交通の便 ・進学 ・安全

予想を確かめるためには、どのようなことを調べたらよいか考える。
 ・出生数と死亡数。転入・転出する人の数。
 ・減少（増加）した時期に何があったか。
 ・人口が減少した地域と増加した地域の様子。
 どんな仕事があるか。店、交通機関、大学など

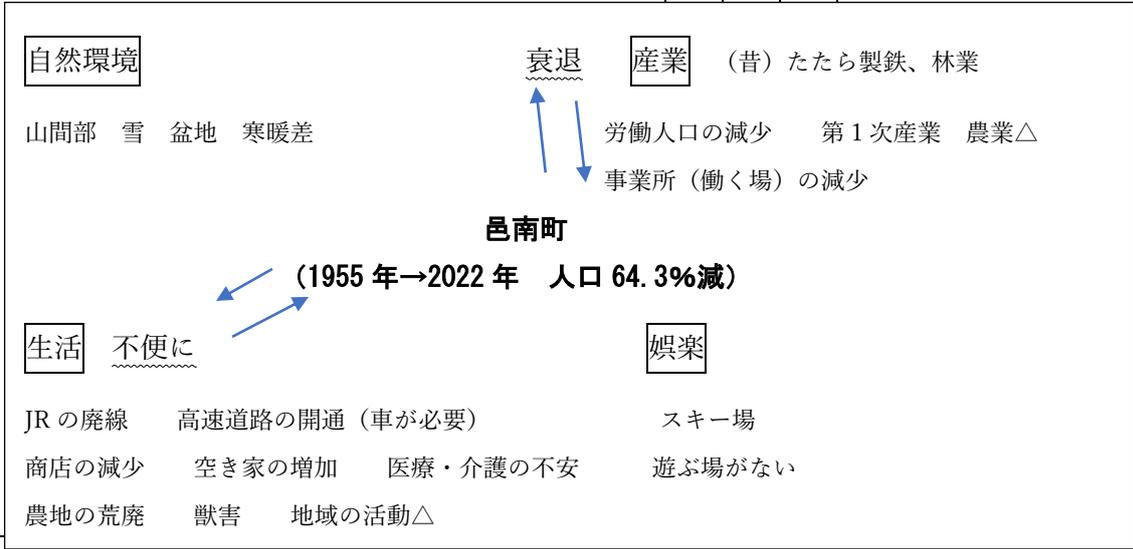
○ ○見通しをもって単元全体の学習を進めようとしている。
 （ふりかえりシート）

2

本時の問い：島根県はかつては人口が多かったのに、なぜ大きく減ってしまったのだろうか。

資料をもとに、島根県の人口が大きく減少した背景を考える。
 ・高度経済成長期以降も工業化があまり進まなかったことにより、多くの若者が大都市へ流出し、人口減少と高齢化が進んだ。
 ・特に、山間部の多い県西部と、離島である隠岐の過疎化が顕著である。

県西部の山間部に位置する邑南町では、具体的にどのような変化が起きているのか、資料から考える。
 前時の予想で出てきた内容から、「自然環境」「産業」「生活」「娯楽」という4つの大きなまとまりに分けて整理する。



4	<p>本時の問い：過疎化が進む邑南町で、若い世代が増加したのはなぜだろうか。</p> <p>邑南町の人口減少対策の取り組みとして、「日本一の子育て村構想」と「A 級グルメ構想」があることを知る。「日本一の子育て村構想」の概要について知る。もう一つの「A 級グルメ構想」とはどのような取り組みか、資料（にっぽん A 級グルメのまち連合 ホームページなど）をもとに調べ、ワークシートにまとめる。</p> <p>「A 級グルメ構想」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな食材を生かした地域おこし ・道の駅，食の学校，レストラン 	●		●資料から学習課題につながる情報を適切に読み取っている。（ワークシート）
5 本時	<p>本時の問い：過疎化が進む邑南町で、若い世代が増加しているのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色である良質の食材を生かした地域おこしにより、町内の農業や観光業が活性化している。 ・広島市などの大都市と比べて利便性では劣るが、豊かな自然環境が残っている。 ・交通渋滞や待機児童などの問題がある大都市に対して、子育てをする環境がよい。 ・高速道路を利用すれば、広島市へ1時間余りで移動できる。 ・インターネットの普及により、仕事、買い物、娯楽といった面で、大都市と地方の差は小さくなっている。 	○		○邑南町で若い世代が増加した理由を、産業の活性化及び邑南町の自然環境や人々の生活の特色と関連づけて理解している。（ワークシート）
6	<p>本時の問い：地域の人口は、どのような要因によって減少したり増加したりするのだろうか。</p> <p>「単元を貫く問い」のまとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業が衰退し生活が不便になった地方では、若い人々が大都市へ流出し、人口が減少している。しかし、邑南町のように地域の特色を生かした取り組みをすることで町が活性化し、大都市にはない自然環境などの魅力を求めて地方に移住する人も多い。高速道路やインターネットがあることで、地方での生活もしやすくなっている。 <p>自分の学習を振り返り、学んだことをどのように生かしていきたいか書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の子想では生活の便利さや娯楽が要因だと思っていたけど、産業も重要だとわかった。未来創造科で職場訪問をするので、事業所がどんなことをしているのか詳しく聞いてみたい。 ・その地域の特徴にあった取り組みをすることが大切だと思った。他の地域がどんな取り組みをしているのか調べてみて、松江市では何ができるのか考えてみたい。 	○	○	○人口の分布や動態を、自然環境、産業、人々の生活の様子や、そこで生ずる課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、まとめている。（ふりかえりシート）

6 本時の学習

(1) 本時の目標

邑南町で若い世代が増加した理由を、産業の活性化及び邑南町の自然環境や人々の生活の特色と関連付けて理解する。(知識及び技能)

(2) 展開

主な学習場面と子どもの取り組み	めざす姿と取り組みを支える手立て
1 前時の内容を振り返り、本時の問いを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> 本時の問い：過疎化が進む邑南町で、若い世代が増加しているのはなぜだろうか。 </div>	
<p>2 A 級グルメ構想によって若い世代が増加したのは、「自然環境」「産業」「生活」「娯楽」のどの部分が変わったからなのか考え、発表する。</p> <p>「産業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の野菜がたくさん売れ、農家の収入が増えた。 ・食の学校で学んだ人が、町内で新しい店を出している。 ・A 級グルメを食べに来る観光客が増えた。 ・地元の食材を生かした取り組みにより、町内の農業や観光業が活性化している。 <p>「生活」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の学校ができて、全国から人が来るようになった。 ・邑南町が有名になり、移住する人が増えた。 ・移住してくる人が増え、空き家が減った。 <ul style="list-style-type: none"> ・地元の人も新しい店がたくさんできてうれしい。 ・この町に住んでいて良かったと思える。 ・邑南町から転出する人が減る。 ・一度、町外へ出た人が U ターンしやすくなる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地元の飲食店は、町がつくったレストランに客を奪われるので、うれしくない。 ・移住してくる人が増えると、昔からの町の雰囲気が変わってしまう。 	<p>A 級グルメ構想と若い世代が増加したことを関連づけられるように、第 2 時で作成した邑南町の図を見ながら考える。</p> <p>自分の考えを深めたり、自分にはない視点に気づいたりするために、グループで意見をまとめ、発表する。</p> <p>A 級グルメ構想が与えた効果を多角的に思考できるように、発表を受けて、移住者（U・I ターン者）と地元住民それぞれにとってどのような効果があったのか教師が問いかける。</p> <p>産業が活性化したことで、過疎化が進行してきたこれまでの流れが変化しつつあることを理解できるように、A 級グルメ構想によって図中のどの部分が変わったのかを明確にする。</p> <p>産業以外の意見が多く出てきた場合は、邑南町で人口が減少してきた要因をもう一度確認し、その地域に住んで生活していくためには収入を得る手段が必要であることに気づくようにする。</p>
3 A 級グルメ構想では変化していない面のうち、自然環境の厳しさと生活の不便さに注目し、若い世代が増加している理由を産業以外の面から考え、発表する。	<p>従来は負の側面として捉えられていた邑南町の自然環境や生活が、見方を変えれば地域の強みにもなっていることに気づけるように、安佐南区の図にある都市問題に注目しながら考える。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞や待機児童の問題のある安佐南区よりも邑南町の方が快適に生活できる。 ・開発により環境が変化した大都市に対して、邑南町は豊かな自然環境が残っている。 ・感染症対策という点では、人口密度の高い大都市よりも地方の方が生活しやすい。 ・やはり田舎は不便で生活しにくい。 <p>4 A 級グルメ構想では変化していない面のうち、娯楽がないことに注目し、若い世代が増加した理由を邑南町と大都市との結び付きから考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路を利用して広島市へ行けば、買い物や娯楽を楽しむことができる。 ・インターネットがあるので、邑南町にいても情報を得たり動画などを楽しんだりすることができる。 <p>5 本時のまとめと振り返りを書き、発表する。</p> <p>○本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A 級グルメ構想によって農業や観光業が活性化し、邑南町でも収入を得て生活できるようになった。子育て世代は待機児童や渋滞の問題がある大都市よりも、自然豊かな邑南町で暮らしたいと考える人もいる。高速道路を使って広島市に買い物や遊びに行くこともできる。 <p>○疑問やもっと調べたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A 級グルメがあるなら、B 級とか C 級グルメはあるのか。 ・邑南町に転入してきた人はどこから来たのか。 ・起業した人の話を聞いてみたい。 ・高齢者に対する取り組みは何かしているのか。 ・邑南町以外の地域では、どのような取り組みをしているのか。 ・松江市はどうか。 	<p>自然環境の厳しさや生活の不便さを、見方を変えて考えることが難しい場合は、子育てをしている人々の立場で考えてみることで、便利な都市での生活を求める人がいる一方で、子育て世代にとっては自然豊かで広々とした環境で生活できることが大きな魅力であることに気づけるようにする。</p> <p>高速道路の視点が出てこない場合は、高速道路網の広がりを示す図を見て、邑南町と広島市が高速道路で結ばれていることに注目する。</p> <p>書くことが難しい場合は、邑南町の図の変化した部分を具体的に示し、それが若い世代の増加とどのように関連しているか考えさせる。</p> <div data-bbox="922 1211 1417 1469" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>邑南町で若い世代が増加した理由を、産業の活性化及び邑南町の自然環境や人々の生活の特色と関連づけて理解している。(知識・技能)</p> <p style="text-align: right;">ワークシート、発表</p> </div> <p>「疑問やもっと調べたいこと」が探求的な学びに結びつくよう、「単元を貫く問い」の追究につながるような内容のものを全体に紹介する。</p>
--	---

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	努力を要する状況への手立て
概ね満足できると判断される状況に加えて、邑南町で若い世代が増加した理由を、高速道路などによる邑南町と大都市との結び付きにも着目して、記述している。	邑南町で若い世代が増加した理由を、産業の活性化及び邑南町の自然環境や人々の生活の特色と関連付けて記述している。	邑南町の図の変化した部分を具体的に示し、それが若い世代の増加とどのように関連しているか考えさせる。

